

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：32677

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03669

研究課題名（和文）経営者の社会的ネットワークやジェンダーがインド小企業のパフォーマンスに与える影響

研究課題名（英文）Gender, Social Networks and Entrepreneurship in India

研究代表者

二階堂 有子 (Nikaido, Yuko)

武蔵大学・経済学部・准教授

研究者番号：20396899

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、インドの企業数の90%以上、雇用数の約57%を占める小企業を対象にしている。この部門は、長い間政府からの支援政策を提供されているのにも関わらず、中企業や大企業へ成長するケースは少なく、労働生産性（所得）も低い。インドが今後も成長を続けるためには、受け皿となるこの部門の成長と生産性の向上が不可欠である。

こうした背景から、本研究は、小企業がなぜ小さいままなのか、経営者のジェンダーや社会的ネットワークが起業家精神や企業成長にどのような影響を与えているのかを、最新のセンサスデータを用いた計量分析と南インドでのフィールド調査を通じて明らかにする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的特色は、経営者の特性やネットワークなど、これまで企業成長との関係性が十分に明らかにされてこなかった要因を包括的に分析する点にある。近年、実験経済学の途上国への適用は広く行われているが、小企業の経営者を対象としたフィールド実験の事例は未だ少ない。

また、余剰労働力を抱えるインドの持続的な成長のためには小企業の成長や生産性の向上が不可欠であり、本研究の結果から小企業の成長を促す制度設計を行うことが可能である。さらに、女性経営者の意識や選好に関する本研究の分析を通じて、女性の潜在能力活用やエンパワメント向上に向けた政策提言が可能となる。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we focus on micro and small enterprises (small enterprises, hereafter), which account for more than 90 percent of the enterprises and about 60 percent of the total employment in India. Although the Indian government has supported this sector since the 1950s, only a few small enterprises have grown into medium and large enterprises. Furthermore, the labor productivity of small enterprises has been much lower than that of large enterprises. Thus, the growth of this sector is necessary for India's inclusive growth, considering India's growing working population. Given this background, we will clarify why small enterprises remain small and how gender and social networks of the owners affect entrepreneurship and firm performance by analyzing latest national census on small enterprises and our field surveys in South India.

研究分野：開発経済学、インド経済、中小企業論

キーワード：インド 中小零細企業 女性起業家 経済実験 女性のエンパワメント コスト 包摂的な成長 金融包摂

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

インド政府は大企業による重化学工業を促進する一方で、長年、雇用創造や裾野産業育成のため小規模製造業企業（以下「小企業」と呼ぶ）に対して、金融・マーケティング・インフラ・技術支援など様々な施策を講じてきた。しかし、こうした支援政策にもかかわらず、インドでは小企業が中企業や大企業に成長していくケースはほとんどみられない。Mazumdar and Sarkar (2013)によれば、雇用人数規模で50人未満の小企業が雇用全体に占める割合は1984年度の49.8%から2004年度の57.0%へ（とりわけ、10人未満の零細企業が40.3%から46.6%へ）とむしろ増大している。50人以上500人未満の中企業が雇用全体に占める割合は1984年度の20.1%から2004年度の22.7%へとわずかに数パーセント増加しているものの、500人以上の大企業のそれは、同期間に30.2%から20.3%へと低下している。Mazumdar and Sarkar (2013)では労働生産性が大企業の12分の1しかない小企業に就業人口が偏る現象を“Missing Middle”と表現しているが、今後もインドの労働力人口が増加し続けることを踏まえれば、その受け皿となる可能性が高い小企業の成長と生産性の向上は、インド経済の持続的な経済成長のために極めて重要な問題と言える。

Beck and Demirgüç-Kunt (2006)は、小企業の成長を妨げる最大の要因として制度金融への不十分なアクセスを挙げている。そのため、Nikaido et al. (2015)はインド小企業支援政策のうち政策金融に焦点を絞り、制度金融へのアクセスの決定要因を分析した。インド統計・事業実施省傘下の全国標本調査機構が2005-06年度に実施した「非組織部門製造業企業調査」の個票データを利用したこの研究では信用需要のある企業のうち、何らかの機関や法令下への登録の有無、企業が立地している地域、経営者の学歴や性別の違い、などの様々な要因によって企業が融資を受けられる可能性に相違があることがわかった。ただし、この研究で用いた調査票・データからは信用需要がない企業の理由を把握できなかった。そのため、成長する意欲がないため、制度金融を利用しないのか、それとも成長意欲はあるものの、制度金融を利用できないのか、制度金融との直接的な関係性だけでなく、インドの小企業経営者の実態や特性をより詳細に分析する必要性があると判明した。

インド小企業経営者の特性に注目したDeshpande and Sharma (2013)の研究では、経営者のカーストやジェンダーが産出量の成長率に与える影響を分析し、（指定カーストや指定部族、後進階級に比して）ヒンドゥー教上位カーストが経営する企業、（男性が経営する企業に比して）女性が経営する企業のほうが成長が高いことを明らかにした。つまり、Eckel and Grossman (2008)やNiederle and Vesterlund (2007)などの研究のように、これまでの先進国を中心とした先行研究では、一般的に女性は男性よりもリスク回避的で、それがパフォーマンスに影響していると言われてきたが、インドの文脈では必ずしも当てはまらない可能性がある。さらにSinha (2009)による南インドの自助グループ（Self Help Group: SHG）から誕生した女性起業家の研究などを踏まえれば、男性と女性が携わりたい業種に違いはあっても、経営者の社会的なネットワークが起業家精神や企業パフォーマンスに影響を与えている可能性がある。

2. 研究の目的

上術のような背景から、本研究ではインドにおいて小企業が小さいままであることや企業パフォーマンスの違いについて、既存研究で注目されてきた制度金融へのアクセスの影響だけでなく、経営者のジェンダーや社会的ネットワーク及び経営者自身の心理的属性や各種嗜好の影響について、インド南部でのアンケート調査とフィールド実験を通じて明らかにする。

Cardenas and Carpenter (2008)では、社会的ネットワークや信頼は様々な経済パフォーマンスにポジティブな影響を与えていることに言及している。インド政府が実施・提供している前述の「非組織部門製造業調査」や「全インド中小零細企業センサス」の大規模調査では、経営者の宗教やカースト（ヴァルナ）の情報は得られるが、経営者のネットワークの情報が得られない。インドでは職業カースト（ジャーティ）のほか、マルワリー（Malwari）やグジャラティー（Gujarati）といったビジネス・コミュニティが存在しており、そういったネットワークがビジネスに大きな影響を与えている。そのほか、卒業した学校の同窓会ネットワークや、女性にとってはNGOやSHGでの活動を通じて女性が起業することや働くことへのタブー意識を変えている。そのため本研究では第一にこうした様々な社会ネットワークが企業パフォーマンスや経営者の意識に与える影響を明らかにする。

その一方、近年の行動経済学的研究を考慮した場合、前述のような社会的ネットワークの影響を分析するうえで、個々の経営者の心理的属性や選好の影響をコントロールする必要性がある。実際にGneezy et al. (2003)では、文化的背景によって女性の社会進出に重要となる競争心に違いがあるという結果を示しており、インドの女性経営者が比較的多い地域においても競争心のような経営者自身が持つ特性の違いが影響している可能性がある。そのため本研究では第二に経営者自身の心理的属性や選好をフィールド実験により明らかにする。最終的には経営者の社会的ネットワークや特性が企業のパフォーマンスに与える影響を分析し、インドの小企業の成長や生産性向上のための要因を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究の動機付けである、インドにおいて企業の90%以上を占める小企業が長年の支援政策にも関わらず小さいままであるのはなぜか、経営者のジェンダーや社会的ネットワークが起業家精神やパフォーマンスにいかに関与しているか、について(1)2次データを用いた計量分析と(2)インド南部(カルナータカ州)でのフィールド調査を通じて明らかにする。研究組織と分担については下記の通りである。

| 役割 | メンバー | 研究分担 |
|-------|--|---|
| 研究代表者 | 二階堂 有子 (武蔵大学) | 研究の総括、アンケート・フィールド調査の準備・実施、データ整理と分析、基礎文献整理 |
| 研究分担者 | 田中 健太 (武蔵大学) | フィールド実験の実施 データ分析、実験関連文献整理 |
| 研究協力者 | Dr. Jesim Pais Director, the Society for Social and Economic Society (SSER), Delhi | 調査地域のコーディネート、聞き取り調査項目作成の補助、アシスタントの手配・監督 |

(1)については、中小零細企業省が2008年度に実施した「第四回全インド中小零細企業センサス」の個票データを利用し、小企業の成長に、企業や経営者の属性のほか、政府の支援政策が与えている影響を分析する。

(2)については、起業家や経営者を対象に企業の属性や既存の制度の利用、社会的ネットワークについてアンケート調査を実施したうえで、心理的属性や各種選好についての経済実験を行う。そして、アンケート調査、調査地域における公的なデータ及び経済実験の結果を接合した

うえで、計量分析を行い、既存研究では十分に明らかにされてこなかった前述の各種要因が企業の規模やパフォーマンスに与える影響を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 二次データを用いた計量分析について

まず、中小零細企業省が2008年度に実施した「第四回全インド中小零細企業センサス」の個票データを利用し、小規模企業の成長に、企業や経営者の属性のほか、政府の支援政策が与えている影響を分析した(二階堂2017)。インドでは、雇用創出や地域分散を目的に、小規模企業に対して1950年代から税制上の優遇や一定品目の製造を小規模企業に排他的に留保する留保品目制度など様々な政策が提供されてきた。ただし、こうした支援政策が長年に渡って継続されていることにより、小規模企業の成長意欲を妨げているといわれている。つまり、企業規模が小規模企業の定義を超えて拡大すると、支援政策を享受できなくなるため、小規模に留まる企業があるという。本研究の実証分析の結果、企業規模や企業年齢と企業成長は負の関係にあること、技術導入に積極的な企業の成長率が高いこと、農村部に立地する企業や単独所有の企業の成長率が低いことが明らかになった。これらはJovanovic(1982)などの企業規模や年齢と企業成長の関係を分析した一連の研究や企業成長の要因分析を行った先行研究の結果と一致する。その一方で、Coad and Tamvada(2012)を含む多くの先行研究とは異なり、インドでは女性の経営する企業が男性の経営する企業よりも成長が高いことが分かった。また、政府の支援政策のうち、留保品目を製造している企業の成長が低いという皮肉な結果が得られた。

次に、同じセンサスデータを用い、女性が経営する企業のみサンプルを限定し分析を行った。文化的多様性を有すインドにおいて、単に男性が経営する企業と女性が経営する企業の実績を比較するだけでは、女性の経営者が直面している真の問題を明らかにできない可能性があるためである。こうして新たな研究(Nikaido and Pais 2018)では、女性が経営する企業を、起業活動の初期段階(企業年齢3.5年以内)とそれ以降に分けて、経営者の宗教やカースト、立地する地域といった特徴がいかん企業成長に影響を与えているか計量分析を行った。その結果、第一に(予想に反し)宗教的マイノリティであるムスリム女性が経営する企業がマジョリティのヒンドゥー教徒の女性が経営する企業よりも、一貫して成長が高いことが分かった。第二に、ヒンドゥー教の場合、初期段階において、低いカーストの女性が経営する企業と上位カーストの女性が経営する企業に成長の差はなかったが、次第にカーストの低い女性が経営する企業の成長がカーストの高い女性が経営する企業の成長に比べて低くなることが分かった。第三に、南インドは他の地域に比べ、SHGやNGOの活動が活発で女性が起業しやすい環境にあるが、南インドに立地する女性企業は、企業の持続的成長に課題を抱えていることが分かった。以上のことから、カーストが低いことに起因して様々な資源にアクセスできず、事業の拡大が困難になっている可能性、女性のネットワークは起業の促進には有効に働くものの、参入が容易な同じような業種への参入が過当競争をもたらし、成長に負の影響を与えている可能性がある。

(2) インド南部(カルナータカ州)でのフィールド調査について

潜在的起業家としての大学生・大学院生に対する調査

2017年度8月に、バンガロールとマイソールの3大学で調査を行った。具体的には、潜在的な起業家としての大学生・大学院生約200名で、彼らの家族・友人関係など社会・文化的な属性や起業についてのアンケート調査と、リスク選好や信頼、競争心を測る経済実験を行った。その後、より頑強な分析になるように、2019年度8月にマイソールの3大学(男性学生79人、女性

学生 73 人、合計 152 人)でも同様な調査を行った。

2 回に渡るフィールド調査のデータを合わせて、潜在的起業家の性別や宗教・カーストといった社会・文化的な属性や友人関係といったネットワークがリスクや信頼、競争心にどのような影響を与えているかの実証分析を行った。その結果、性別が競争心に与える影響については統計的に有意な差はみられなかったものの、出自(カースト)が競争心に与える影響が確認された。

女性企業家に対する調査

2018 年にカルナータカ州の 2 地域において、女性企業家を対象にフィールド調査を行った。約 40 名の女性企業家と約 40 名の女性企業家の関係者(友人)を対象に、リスク選好を測るくじ引き選択実験、信頼心の測定(トラストゲーム)、競争心を測るための実験を実施し、参加者の属性データもアンケート調査を通じて収集した。女性企業家と関係がある友人・家族を含めた実験を行うことで、起業を促進・制限する要因を把握することが可能になるためだ。今後、他の地域でも同様な調査を行い、サンプルを増やすことにより、女性企業のパフォーマンス向上や起業促進に対する具体的な施策を提言する。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 2件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 田中 健太 | 4. 巻 53 (2) |
| 2. 論文標題 持続可能な資源利用のためのコミュニティマネジメント：共有資源問題を解決するための協力的行動の分析 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 組織科学 | 6. 最初と最後の頁 25-32 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.11207/soshikikagaku.53.2_25 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 Nikaido, Yuko and Pais, Jesim | 4. 巻 90 |
| 2. 論文標題 Women owning small firms in India: Analysing social and cultural diversity | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Musashi University Discussion Paper Series | 6. 最初と最後の頁 1-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://papers.ssrn.com/sol3/papers.cfm?abstract_id=3191664 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 該当する |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 二階堂 有子 | 4. 巻 第85巻 第4号 |
| 2. 論文標題 インド小規模企業の成長と政府の支援政策 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 経済志林 | 6. 最初と最後の頁 487-509 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://doi.org/10.15002/00014908 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 4件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 Sarma, Mandira and Nikaido, Yuko |
| 2. 発表標題 Financial Inclusion in India: Analysing regional, social and gender disparities |
| 3. 学会等名 The 32nd Annual conference of the Japanese Association for South Asian Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Nikaido, Yuko and Pais, Jesim |
| 2. 発表標題 Women owning small firms in India: Analysing social and cultural diversity |
| 3. 学会等名 The 32nd Annual conference of the Japanese Association for South Asian Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Nikaido, Yuko and Pais, Jesim |
| 2. 発表標題 Women owning small firms in India: Analysing social and cultural diversity |
| 3. 学会等名 Diana International Research Conference 2018 (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Nikaido, Yuko and Pais, Jesim |
| 2. 発表標題 Networks and Clusters: A Study of Growth of Small Enterprises in India |
| 3. 学会等名 The 30th Annual conference of the Japanese Association for South Asian Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|-------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 田中 健太 (Tanaka Kenta) (30633474) | 武蔵大学・経済学部・教授 (32677) | |